

2010 年ワールドカップ南アフリカ大会における攻撃の分析

—2006 年ドイツ大会との比較—

An analysis of attacking of 2010FIFA World Cup South Africa

-Comparing with 2006FIFA World Cup-

1K07B079-9 幸田一 亮

指導教員 主査 堀野博幸先生 副査 広瀬統一先生

序論

今年は4年に1度開かれるサッカーの祭典ワールドカップがあった年であった。世界最高峰の2010年ワールドカップ南アフリカ大会を以前の大会と比較することによって、時代に流れとともに大きく変化していくサッカーの傾向を把握することが可能である。現在の最新とされるサッカーの傾向を分析し、次回大会に向けての対策を講じることで今後のサッカーの発展に寄与することを、本研究の目的とした。2010年ワールドカップ南アフリカ大会で行われた全64試合から生まれた145得点を抽出して2006年ワールドカップドイツ大会と比較し、どのように変化したのかを分析した。そこから今大会の傾向を考察した。

方法

全64試合から生まれた145得点を抽出し、「得点に至るまでの時間」「得点に至るまでのパス数」「得点の入った時間帯」「総得点の内訳」「得点に至るまでの攻撃パターン」に分類した。それを主に2006年ワールドカップドイツ大会のデータと比較しどのように変化したのかを分析した。「得点に至るまでの時間」「得点に至るまでのパス数」「得点の入った時間帯」「総得点の内訳」を2006年ワールドカップドイツ大会と比較し分析をした。「得点に至るまでの攻撃パターン」は2010年ワールドカップ南アフリカ大会の傾向として質的に考察を行った。

結果

「得点に至るまでの時間」では、1~10秒以内の得点が54点と最も多く、時間がかかるにつれて得点数は減少している。1998年大会と2006年大会の傾向と、2002年大会と2010年大会がほとんど変わらない結果となった。2002年大会と2010年大会においてボール奪取からゴールするまでの時間が長くなるほど、得点数は減少してきているが、1998年大会と2006年大会ではボールを奪ってから1(秒)~10よりも、11(秒)~20のほうが得点数が増加している。

「得点に至るまでのパス数」では、パス数が0~3本が各大会で最も得点数が多く、パス数が多くなるほど各大会得点数が減少している。

「得点の入った時間帯」では、2010年大会は前半15分間の得点数が過去2大会に比べて減少している。3大会すべてにおいて、後半76分からロスタイムでの得点が1試合の中で最も多かった。

「総得点の内訳」では、各大会とも約70%がオープン

プレーでの得点で、約30%がセットプレーからの得点となっている。

「得点に至るまでの攻撃パターン」では、遅攻が最も多く、次に速攻、カウンターとなった。シュート直前のプレーでは、ショートパスからの得点が最も多かった。速攻、遅攻ではショートパスの次にセンタリングからの得点が多く、カウンター攻撃ではスルーパスからの得点が多かった。カウンター攻撃では速攻、遅攻に比べてロングパス、ドリブル突破、スルーパスからの得点が多くなっているが、速攻、遅攻に比べてセンタリングからの得点は少なかった。

考察

ボールを奪取してからいかに時間をかけずにゴールを目指すかが得点を奪う上で重要なポイントになると推察される。1998年大会と2006年大会の傾向と2002年大会と2010年大会がほとんど変わらない結果となったことから、過去のワールドカップの傾向から4年間でしっかりと対策を取ることで、同じような傾向が繰り返されることが推察できる。よって、次のワールドカップでは、強固な守備組織を崩すための攻撃的な戦術・戦略・技術がさらに高まり、時間をかけても得点が奪えるのではないかと考えられる。2010年大会では前半15分間の得点数が減少しているという結果から、今大会では過去に失点数の多い前半の15分に高い集中力とレベルアップした守備組織で守りぬいていたと推察される。2010年南アフリカワールドカップでは、得点に至るまでの攻撃パターンで速攻とカウンター攻撃が約40%を占めていることから、速い攻撃は有効であることがわかる。こぼれからの得点は全体の約1割を占めているが、拮抗した試合の中では、ボールがこぼれてくると予測できるポジションにすることが重要であり、最後までゴールを狙う姿勢が得点を生む。

結論

2010年南アフリカワールドカップでは速攻、カウンター攻撃が有効であり、2006年ドイツワールドカップに比べて増加傾向にあった。前回大会の傾向から次回大会の傾向が予測でき、2014年ブラジルワールドカップでは、強固な守備組織を上回る攻撃的な戦術・戦略・技術が発達していき、速攻・カウンターは減少すると考えられる。しかし、ボールを奪取からの速攻、カウンター攻撃が有効であることに変わりはなく、1点を争う拮抗した試合が展開されていくと考えられる。